

投稿月日	平成27年4月9日
タイトル	ふるさとの生きた宝「スイゲンゼニタナゴ」を守ろう！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年3月22日、福山市の環境保全課と学校法人 盈進学園 盈進中学高等学校の環境科学研究部により「スイゲンゼニタナゴ」の調査が水土里ネット福山の用水路で行われたので取材しました。

水土里ネット福山(福山市土地改良区)では、福山市の南部に農業用水を安定的に確保・供給するため国営事業で施行された三川ダムの附帯工事により昭和36年に芦田川に「七社頭首工^{ななやしろうしゅこう}」が築造されました。

七社頭首工より取水された用水は、芦田川左岸側の久松用水、右岸側の葦陽用水に分かれ福山市旧市街地や南東部の隅々まで配水しています。

この七社用水は疏水百選にも選ばれた用水で、受益地の大半が市街地ですが、生産量日本一の「くわい」(おせち料理に使われます)をはじめ多くの農作物を生産しています。

また、広島県では芦田川水系のみに生息が確認されている「スイゲンゼニタナゴ」が生息しています。

「スイゲンゼニタナゴ」は、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動物種に指定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚です。



七社頭首工



葦陽、久松の分水

久松用水は、さらに3つの水系に分かれており、丸川分水で3つの幹線用水路へ分水されています。

丸川分水は、平成7年度に改修した際スイゲンゼニタナゴを守るため川底に川砂を入れ自然護岸としました。



自然石が露わになった丸川分水



下流へ分水する樋門です

この丸川分水では、20年以上前から毎年、福山市の環境保全課と学校法人 盈進学園 盈進中学高等学校の環境科学研究部が協力し、スイゲンゼニタナゴや、スイゲンゼニタナゴが卵を産みつける二枚貝(イシガイ・マツカ

サガイ・トンガリササノハガイなど)、いわゆる産卵母貝の調査が行われています。

調査のためには丸川分水の水位を下げる必要があります。水土里ネット福山では、下流の3つの水系の受益者の理解を得て、調査の期間は用水を止水しています。

当日は、朝9時からの調査に環境科学研究部の顧問の古本哲史先生、大北祐治先生と約20名の生徒とスイゲンゼニタナゴを守る市民の会のメンバーが参加しました。

各自、現地集合した生徒たちは、このクラブのユニホームである胴長に着替えて準備万端です。胴長は生徒一人一人が自分の物を用意するそうです。野球に例えると、胴長はユニホームで、タモ網はバットに相当するそうです。軍手も用意されていましたが、指先の感触で貝の有無を確かめるため素手で調査されました。

護岸に植えてある桜の蕾も膨らんでいるものの、まだまだ、水に入るには寒い日でしたが、生徒たちと福山市環境保全課の方は、樋門に近い下流から一列に並んで丸川分水へ入りました。



樋門に近い所は深くなっていて危険！

素手で探していきます！冷たい！

横一列に並んで、一齐に上流に向けて調査開始です。寒い中、生徒たちは、這いつくばって、素手で用水の底を浚いながら貝を探していきます。上級生と下級生が交互に並び、貝の見つけ方や見つけた時には貝の名前を教えてあげていました。

貝を見つけると、大きな声で貝の名前を言うと先生が確認され、位置を地図に記載されます。そうやって、毎年の貝の分布を比較するのだそうです。

今年は、樋門に近い下流には貝が少なく、上流に行くほど多くなっていました。大北先生にお聞きしたところ、砂の堆積が多いので、徐々に上流に分布が変わっているそうです。



貝がありました～！



上流に近づくと貝が増えてきた！



貝の次は魚です。生徒たちは網を持って水の中へ入っていきます。
上から見ていると魚が泳いでいるように見えなかったのですが、いっぱい魚を採ってきて、びっくりしました。
上級生が下級生に魚の名前を教えてあげていました。



残念ながら、スイゲンゼニタナゴは1匹もおらず、産卵母貝となる貝も非常に少なくなっていました。全体の貝の量は、昨年の1.5倍あり、魚も16種類が確認できました。

確認した後は、貝も魚も上流から放流して丸川分水へ帰してあげました。



丸川分水に設置してあり、スイゲンゼニタナゴの保護を呼びかけている立て看板。

今年初めて調査を取材させていただきましたが、普段目にする事のない水面下に、こんなに多くの生物が生息していることを知りました。

平成27年3月24日には、「スイゲンゼニタナゴを守る市民の会」をはじめ有識者、広島県並びに福山市の行政関係課や水土里ネット福山、地域住民がメンバーとなり「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が設立されました。

ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が、将来にわたってこの芦田川水系に健全かつ安定的に生息できるよう、きれいな農業用水の取水配水に努めていきたいと思えます。

たいせつ
大切にしたいね

きょうど
郷土の生きた宝物

たからもの
スイゲンゼニタナゴ

スイゲンゼニタナゴを守る市民の会
〒720-8504 福山市千田町千田 487-4 倉庫2階
TEL: 084-955-2333

※この下敷きはマツダ財団の支援で作成されました

●捕ったり・飼ったりは犯罪

環境省は最も絶滅の心配が高い種として、スイゲンゼニタナゴを「種の保存法」という法律が定める国内希少野生動植物種に指定しています。特別の許可を得ない捕獲・飼育・譲渡などの行為は犯罪として罰せられます。

スイゲンゼニタナゴ ▲オス

Rhodeus atremius suigensis

4~5cmの小さなタナゴのなかま。4~5月が繁殖期で、イシガイなどの小型の二枚貝の中に卵を産みつける。多くは1年余りで寿命となる。

●絶滅寸前!

スイゲンゼニタナゴは岡山県と福山市のみに分布するタナゴのなかまです。生息環境の用水路などがコンクリートで護岸されたことで生息地が失われ、**絶滅寸前**になっています。福山市内で現在も生息している場所は、**わずかに2ヶ所**です。貴重な郷土の生きた宝物、スイゲンゼニタナゴが絶滅しないよう、大切にしましょう。

▲卵を産もうとイシガイをのぞき込むメスとオス

4~5月、二枚貝のまわりにオスはなわばりをつくり、メスを誘う行動をみせる。

▲イシガイの中の赤ちゃん(仔魚)

一回の産卵数は少なく、1~数粒が貝の出水管から産み付けられます。

▲貝から出てきた子ども(稚魚)たち

6~7月、貝から出た子どもたちは、流れがゆるく浅い岸辺で群れています。

▲タナゴらしくなったわかもの(幼魚)

成長は早く、8月には2cmほどになり、体の高さも出て、すっかりタナゴのなかまらしくなります。

▲福山市内の生息地に群れる野生の個体群

10~11月には、3~4cmに成長し、もう立派なおとな。産の顔をつつように食べます。

「スイゲンゼニタナゴを守る市民の会」により作成された下敷き

※ スイゲンゼニタナゴは、国の「種の保存法」に指定されていて、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚です。